

## 令和7年度 校内研究 成果と課題について

研究主題 「自ら課題を見付け、友達と協働して解決していこうとする児童の育成」  
—めあてを達成するための適切な話型を活用して授業改善を図る—

### 成果

《視点1 主体的★対話的で深い学びを実現するための言語環境の整備★言語活動の充実》

- ★ノートに計算の説明を自力で書くときに、「まず」「次に」などの順番を多くの児童が使っていた。基本的な説明の方法が身に付いているように感じた。
- ★話型カードが双方向授業支援アプリ（ロイロノート）に整理されていたり、自分のノートを使って説明したり、先生に指示を出して板書してもらったりと相手意識をもって話すことができていた。
- ★グループで発表するときも、全体で共有するときも、それぞれに話型があって児童が発表しやすそうだった。どのグループでも発表者の話を熱心に聞くことができていた。
- ★ヒントカードがあったことで、それを基に児童が円滑に話し合うことができていた。
- ★ファシリテーターを中心に話し合い活動の経験を重ねたことで、自分の思いを伝えることができていた。
- ★複数の話型を組み合わせていた児童もいた。また、同じ話型でも、それぞれの使い方に違いがあった。

《視点2 協働的な学びの充実に向けた学習活動の工夫》

- ★児童に発表を聞く姿勢が育っており、仲間の発表をしっかりと聞けていた。
- ★話型カードがそれぞれの班にあったところがよかった。具体的な内容を紹介し合うことができ、学びが深まっていたと感じた。
- ★自分が調べてきたものを共有することが他の人のテーマとして他者の探求に生かされるというところがよかった。5人中3人が自分で調べてきたものではないものを、調べるテーマとして設定していた。
- ★言葉から色、色から言葉を連想できるように話し合い活動も、名画の鑑賞も「色」を教師が意識して発問したことで、めあてにそった活動できた。
- ★名画の拡大掲示物があったことで、迫力があり、児童も引き込まれるように見入っていた。レプリカであっても、同じ大きさや色合いにこだわったことで、児童の学習活動がより深まった。

《視点3 情報機器（ICT）の効果的な利活用》

- ★子どもたちがタブレット端末の操作に慣れていて、子ども1人1人が物語のあらすじを確認することができていた。
- ★双方向授業支援アプリ（ロイロノート）で話型カードを配信していたので、児童が活用しやすそうだった。ノートの写真を提出箱に出してから発表を行っていたのも、発表が分かりやすくなってよかった。
- ★自分のタブレット端末を使って話型カードを見ていた児童は、自分の考えを書くときに、分かりやすい説明になっていた。
- ★自分の発表後、すぐ写真にコメントを書き加えることができ、全体の発表時にも分かりやすかった。
- ★自分が見つけてきたことを視覚的に分かりやすく情報共有することができていた。
- ★直感的に色を塗ることが出来るアプリの活用は、児童の技能の個人差に寄与するとなく活動に集中させることができる。
- ★操作に慣れている児童が教えるなどの学び合いもあった。

## 課題

《視点1 主体的★対話的で深い学びを実現するための言語環境の整備★言語活動の充実》

★子どもがワークシートの吹き出しに書いたものと、まとめの文に書いたものと同じだった。

発問する際に「なんでだろう？」と授業者が言ったことで、吹き出し（心情）の欄に、まとめと同じく行動の理由を書くようになってしまった。「どんな気持ちだったかな？」という質問をすることで、ためきになりきって書けていたかもしれない。

★発表者が聞いていた人に問いかけるのか、聞いていた人が発表者に質問をするのか分かっていない班が見られた。説明の時にロールプレイを見せてもよいのかと思った。

★名画鑑賞の時間やその後の意見交流の時間も確保し話し合うことができるとよい。

《視点2 協働的な学びの充実に向けた学習活動の工夫》

★小集団でのペアトークや、練習問題も隣同士で確認など、隣の人との交流する時間があってもよかった。

★協働を考えるとペア活動はあったほうが良いと思うが、本時の限られた学習時間の中で、実際に何の時間を削ればペア活動が生まれるのだろうかという疑問に思った。

★児童の取り組んでいる様子をのぞいたら解答できない子が手で隠してしまった。算数は、「答えがわからない」ということが積み重なって苦手意識の強さにもつながると思う。だから、先に答えを知っていることなどが、安心して学習に取り組める方法になるのではないかと感じた。

★話型カードがうまく活用しきれていなかった。

★本時のねらいが「調べたいことを決める」であることを導入の時に抑えることで、紹介し合ったり、発表を聞いたりする際の視点を明確にすることができたのではないか。

★話型が決まっていることによって、話し合いが固くなっている部分があった。低学年・中学年からの積み重ねが大切だと感じた。